



2011. 5. 30 GUZZ. 𐌲

葉画家 群馬直美の「葉っぱアーカイブ」vol.10 2021年9月

《葉画家・群馬直美がこれまでに描いた絵とエッセイをお楽しみください》

絵と文 群馬直美

スイカを描こう!

歳時記を引いていると、いろんな情景が浮かんでくる。ひとつひとつの言葉から、季節ごとの空気感や匂い、音や味までもが生き生きとよみがえってくる。8月のページに「スイカ」をみつけたときも、そうだった。—— 蝉の鳴き声や風鈴の音色、アスファルトの照り返しの眩しさとかと一緒に、口中にスイカの味が満ちてきた。

99.5パーセントが水分で、1つに約500粒もの種を宿すスイカ。古代エジプト人はその種を食べるために栽培していた。

それから4000年の時が経ち、スイカは日本の夏の風物詩になった。濃い緑色で、オシャレな黒い縞模様。割ると現れる真っ赤な果肉は、太陽の申し子そのものだ。

スイカを描こう!

小玉スイカをスーパーで買って来た。細心の注意を払って4分の1にカット。原寸大で描くので、巻き尺で丁寧に寸法を測る。目の前にどんと置いて、さあ、描くぞ! ああ、甘い香りがするよ。

幼い頃から描いてきたけど、じっくり見て描くスイカ体験は初めて。どんな人(=植物)なんだろう?

少し遠目に置いたスイカを見ながら、基調となる色を置いてゆく。果肉の赤、皮との境目のクリームがかった色を出すのに一苦労。白っぽいけど紅く、明るけれど沈んだ黄色……。微妙なトーンの色を何色も作り、薄く塗り重ねてゆく。六時間かかってなんとか近い色合いになった。

モデルのスイカを引き寄せて細部を描く。目を凝らして見て、びっくり! 半透明の緑の皮に、波の形と氷玉が。紅い果肉の表面はまだらな夕焼け雲のよう。細い筋が歌うように走ってる。澄みきった紅い湖面みたいな部分も。

種は平べったい面をこちらに向けているのかと思ったら、全部へたの方を向いて並んでいた。1粒ずつ、かまぐらのような小部屋に収まって快適そう。独り住まいだけど、どつはブーメラン形の大きな筋にみんなちゃんとつながっている。なんて幸せ感いっぱいなスイカの果肉!

食べる前にちょっと描いてみると、いろんなことが見えてくる。私がスイカにありついたのは、3日後のことだったけど……。

(NHKテレビ俳句テキスト『歩いてみよう葉っぱ道』2011年8月号より)

表紙の絵 「小玉スイカ」 スーパーにて 5月28日買う
(群馬県産JA太田市・越塚彰一さん生産・ひとりじめ)

紙(コットマン細目)/テンペラ size:128mm×256mm

(2011年5月30日 完成) © Naomi Gumma

群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、「葉っぱ」をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神—この世の中のひとつつものは全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。著書に『言の葉 葉っぱ暦』群馬直美の木の葉と木の実の美術館』他。東京都立川市在住。https://www.wood.jp/konoha/

建設プロダクト ヤマト

株式会社ヤマト 総務部広報室

2021年9月発行

〒371-0844 群馬県前橋市古市町118 TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896

ヤマトホームページ www.yamato-se.co.jp